

# 自分の考え方の根拠を明確にする力を高める中学校国語科学習指導の工夫

## —吟味する視点を示した「吟味シート」の活用を通して—

江田島市立江田島中学校 二藤 温子

### 研究の要約

本研究は、先行研究の分析から課題を明らかにし、その課題を解決するための学習指導の工夫を考察したものである。先行研究の分析から明らかになった課題は、根拠を吟味する視点について整理することと、書く学習の段階ごとに吟味の方法を明らかにすることである。これらの課題を解決することにより、自分の考え方の根拠を明確にする力を高めることができると考えた。具体的な解決方法としては、根拠を吟味する視点を示した「吟味シート」を活用することが有効であると考えた。そこで、第1学年を対象に、「吟味シート」を活用し、根拠について吟味する活動を行った。その結果、自分の考え方の根拠として「事実」と「理由づけ」を明確にできる生徒が増えた。したがって、「吟味シート」を活用することは、自分の考え方の根拠を明確にすることに対して有効であるといえる。

**キーワード：**根拠 視点

### I 主題設定の理由

中学校学習指導要領（平成20年）の国語第1学年の内容「B書くこと」の指導事項ウとして、「伝えたいたい事実や事柄について、自分の考え方や気持ちを根拠を明確にして書くこと。」が示されている。根拠を明確にして書くことについて、中学校学習指導要領解説国語編（平成20年、以下「解説」とする。）には、「根拠が明確に書かれているかどうかを常に吟味することが必要である。」<sup>1)</sup>と述べられている。

今までの指導を振り返ると、自分の考え方を書く学習において、自分の考え方の根拠を吟味する視点を示すことが不十分であった。それは、私自身が、根拠を吟味する明確な視点をもっていなかったからである。また、根拠を吟味する活動を、記述後においては行っていたが、それ以外の段階においては十分に行っていたなかった。そのため、自分の考え方の根拠が曖昧になっていた生徒が多くいた。

そこで、根拠を吟味する視点を明確に示し、これを用いて常に吟味する活動を行う。これにより、自分の考え方の根拠を明確にする力を高めることができると考え、本主題を設定した。

### II 研究の基本的な考え方

まず、研究主題が本研究とほぼ同じだと考える、広島県立教育センターにおける平成19年度後期教員

長期研修の研究（以下「先行研究」とする。）を分析し、課題を明らかにしていく。さらに、その課題を解決するための学習指導の工夫を考察していくことにする。

### 1 「先行研究」について

#### (1) 「先行研究」に対する分析

「先行研究」の概要を表1に示す。

表1 「先行研究」の概要

研修 題目	意見の根拠を明らかにする力を高める 中学校国語科「書くこと」の指導の工夫 —相互に批評する活動を通して—
高めたい 力	<p>力1：「事実」を正確に示すことができる。 力2：「事実」と意見を結びつける説得力のある「理由づけ」を示すことができる。</p> <p>○高めたい力の前提となる考え方 ・「意見」は、裏付けとなる根拠が必要である。 ・「事実」は、意見の裏付けとなる事実のことである。 ・「理由づけ」は、事実と意見の関係づけの部分のことである。</p>

	<p>・意見の根拠は、「事実」と「理由づけ」とで構成されている。</p> <p>【例】修学旅行だから、貸し切りバスより新幹線で早く目的地に着いたほうが時間の余裕があるからだ。 時間の余裕があれば何故いいかと言うと、見学などがゆっくりできるから。 (傍線部；「事実」　波線部；「理由づけ」)</p>
成 果	<p>① 意見の根拠を明らかにする力を高めることができた。</p> <p>② 取り入れた活動の有効性が明らかになった。</p>
課 題	力 2 を十分には高めることができなかつた。
解決策	「意見」「事実」「理由づけ」の三者のつながりについて全体的に見直す指導をする。

「先行研究」において、「事実」と意見を結びつける「理由づけ」を示せなかった生徒の内容を見ると、「事実」をくわしく書きすぎ、「理由づけ」が「事実」を繰り返すだけになっていた。このことについて、「先行研究」では、「理由づけ」に書くことがなくなったことが原因だとし、「事実」「意見」「理由づけ」のつながりについて全体的に見直す指導が必要であったと述べている。このことから、生徒は、根拠のよい点や不十分な点を確認することが十分できていなかつたと考える。

野澤正美（2005）は、「ものごとを認識する場合、どこに目をつけたらいいか、どこを見たらいいかという目のつけどころが必要です。」<sup>2)</sup>という視点の必要性を述べている。

これらのことから、根拠を吟味する視点を明確に示す必要があると考えた。

一方、吉永幸司（2002）は、「自分の力で評価する力が育っていないため他からの評定を絶対的なものととらえている。」<sup>3)</sup>と述べ、「どこまででき、何が課題かを見きわめるような学習の場を設定することが自己評価をする力を育てることになる。」<sup>4)</sup>と述べている。また、「解説」には、「根拠が明確に書かれているかどうかを常に吟味することが必要である。」<sup>5)</sup>と述べられている。

これらのことから、自己評価の場を多く設定するためには、書く学習の段階ごとに根拠を吟味する活動を行う必要があると考えた。

以上のことから、「先行研究」の課題を、次の二つだと考える。

- ・根拠を吟味する視点を明確に示していなかつたこと。
- ・根拠を常に吟味させていなかつたこと。

## 2 本研究の課題

「先行研究」の課題を踏まえて本研究の課題を整理する。

根拠を吟味する視点を明確に示すためには、まず、その視点について文献などから整理する必要がある。

また、常に吟味させるためには、書く学習の段階ごとに、効果的な吟味の方法を明らかにする必要がある。

以上のことから、本研究の課題を、次の二つに設定する。

- ・根拠を吟味する視点について整理する。【課題 1】
- ・根拠について、書く学習の段階ごとに、効果的な吟味の方法を明らかにする。【課題 2】

## 3 課題解決の方法

### (1) [課題 1]について

#### ア イン味とは

吟味について、「広辞苑」（2011）には、「物事を詳しく調べて選ぶこと。」<sup>6)</sup>とある。また、阿部昇（2009）は、「論説（ある事柄について自分の意見を述べた文章）の指導において特に重要なのは、吟味である。」<sup>7)</sup>と述べ、「その優れた点、不十分な点を子どもたちが主体的に評価・批判する学習過程である。」<sup>8)</sup>と述べている。

これらのことから、本研究では、吟味とは、物事について詳しく調べ、その優れた点や不十分な点について評価・批判し、それに基づいて選ぶこととする。

#### イ 根拠を吟味する視点について

根拠とは、表 1 から、「事実」と「理由づけ」とで構成されていることが分かる。

松田明大（2011）は、意見文を書かせる実践例の中で、自分の作文に採用する理由付けを一つ選ばせたうえで、それを証明する具体的な事実としてどのような内容がふさわしいかという順序で考えさせるという効果的な吟味の方法を示していた。

これらのことと文献から、本研究における根拠を吟味する視点を決定し、次ページの表 2 に示す。なお、これ以降の視点①から⑧は、表 2 の根拠を吟味する視点の具体に準ずるものとする。

表2 本研究における根拠を吟味する視点<sup>(1)</sup>

順序	根拠を吟味する視点	根拠を吟味する視点の具体
1	意見の裏付けとなる事実を詳しく調べる視点	① 課題について自分の経験や知っていることをたくさんくわしく書いてみよう。
2	意見の裏付けとなる事実の優れた点・不十分な点を評価・批判する視点	② 内容や数値がはっきりしているか。 ③ 信頼できるか。
3	事実と意見の関係づけの部分を詳しく調べる視点	④ その事実がよいと考える理由をたくさんくわしく書いてみよう。
4	事実と意見の関係づけの部分の優れた点・不十分な点を評価・批判する視点	⑤ 内容や数値がはっきりしているか。 ⑥ 信頼できるか。
5	評価・批判したことに基づいて、事実と意見の関係づけの部分を選ぶ視点	⑦ 自分が相手に伝えたい最も重要な理由になっているか。
6	評価・批判したことに基づいて、意見の裏付けとなる事実を選ぶ視点	⑧ 選んだ理由に最も合う事実になっているか。

## (2) [課題2]について

### ア 書く学習の段階について

作文指導過程について、箱田浩（1980）は、記述前の指導—記述中の指導—記述後の指導と三段階に分ける考え方があると述べている。また、土部弘（1972）は、作文指導は、記述前の指導、記述そのものの指導、記述後の指導の三節をもってなされると述べ、「記述」での指導を記述そのものの指導、「記述」より前の指導を記述前の指導、それより後の指導を記述後の指導と捉えている。

「記述」とは、『国語教育研究大辞典普及版』（1991）には、「記述前（取材・主題・構想）と記述後（推敲・清書）の間に位置し、記述中などと用いられる。」<sup>9)</sup>とある。また、大内善一（2012）は、「記述中に構想という作用が働く場合もあれば、推敲という作用が働いている場合もある。」<sup>10)</sup>と述べている。

これらのことから、本研究における書く学習の段階とその活動内容を整理し、表3に示す。

表3 本研究における書く学習の段階とその活動内容

	記述前段階	記述中段階	記述後段階
活動内容	・取材 ・主題 ・構想	・構想 ・記述 ・推敲	・推敲 ・清書

### イ 効果的な吟味の方法について

井口あずさ（2011）は、自己評価を「取材」「構想」において取り入れることにより、意見文の質が向上することを明らかにしている。また、土部（1972）は、作文過程の自己評価について、「『表現（叙述）

面』にひるがえる『記述段階』の営みを自己評価させるべきである。」<sup>11)</sup>と述べている。

一方、「先行研究」では、記述後、意見の根拠について相互に吟味する活動を行うことが有効であったと述べている。

以上ア・イから、本研究では、根拠を吟味する活動を、記述前と記述中において自己評価活動として取り入れ、記述後において相互評価活動として取り入れることが効果的であると考える。

### (3) 具体的な解決方法について

土部（1972）は、「作文過程を評価し、過程の活動を援助していくには筆者の自己評価の実態を知って、それにもとづかなければならない。『筆者評価欄』に統けて『協力者評価欄』を設けた評価表を用いることになる。」<sup>12)</sup>と述べている。また、井口（2011）は、自身の毎時の修正内容や過程を把握して、自身の変化や成長を自覚しやすくなるというワークシートの利点を述べており、岩間正則（2010）は、授業の中で、生徒が扱いやすく、簡単に交換できると述べている。

そこで、根拠を吟味した内容や評価を記入し、吟味の過程が把握できるワークシートを作成する。このようなワークシートを用いることにより、(2)の課題を解決できると考える。

また、井口（2011）は、作業の手順や作業が進む過程が視覚的にわかりやすくなるというワークシートの利点を述べている。

そこで、表2を基にして、根拠を吟味する手順を示したワークシートを作成する。このようなワークシートを用いることにより、(1)の課題を解決できると考える。

以上のことから、本研究では、このようなワークシートを「吟味シート」とし、生徒が根拠を吟味する際に活用する。その「吟味シート」を図1に示す。活用の仕方としては、表3に示した段階ごとに、A

の手順に従い根拠を吟味させる。そして、その内容や評価をBに書かせ、自分自身の修正内容や過程を把握できるようにする。

A		B	
<p>① 「理由わけ」を選べる。</p> <p>② 「事実」を評価・批判する。</p> <p>③ 「理由わけ」を説く。</p> <p>④ 「理由わけ」を説く・批判する。</p> <p>⑤ 「理由わけ」を選べる。</p> <p>⑥ 「事実」を選ぶ。</p>	<p>⑦ 選んだ理由づけ</p> <p>⑧ 選んだ事実</p>	<p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑤</p> <p>⑥</p> <p>⑦</p> <p>⑧</p>	<p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑤</p> <p>⑥</p> <p>⑦</p> <p>⑧</p>
<p>根拠を時系列で</p> <p>手順</p>	<p>方法と根拠</p>	<p>意見</p>	<p>意見</p>
<p>【視点③】に関する支援したこと</p> <p>誰もが納得するかどうかで判断する。</p> <p>○水筒には保冷・保温機能がある。</p> <p>×水筒は使いやすい。</p>		<p>【路線整理】 次の視点について〇・△・×を書け。</p> <p>・次の視点で「事実」を選べ、順位の欄に〇を書け。</p> <p>① 「理由わけ」の順位で「理由わけ」を選んで、順位の欄に〇を書け。</p> <p>② 「事実」の順位で「事実」を選んで、順位の欄に〇を書け。</p> <p>③ 「理由わけ」の順位で「理由わけ」を選んで、順位の欄に〇を書け。</p> <p>④ 「理由わけ」の順位で「理由わけ」を選んで、順位の欄に〇を書け。</p> <p>⑤ 「理由わけ」の順位で「理由わけ」を選んで、順位の欄に〇を書け。</p> <p>⑥ 「事実」の順位で「事実」を選んで、順位の欄に〇を書け。</p> <p>⑦ 「理由わけ」の順位で「理由わけ」を選んで、順位の欄に〇を書け。</p> <p>⑧ 「事実」の順位で「事実」を選んで、順位の欄に〇を書け。</p>	

図1 「吟味シート」

### III 研究の仮説及び検証の視点と方法

## 1 研究の仮説

第1学年の考えを書く学習において、根拠を吟味する際に「吟味シート」を活用すれば、自分の考えの根拠を明確にする力を高めることができるであろう。なお、本研究では、自分の考えの根拠を明確にする力を、「先行研究」を参考にして表4に示すとおりとする。

表4 本研究における自分の考え方の根拠を明確にする力

力A	「事実」を正しく示すことができる。
力B	「事実」と意見を結びつける「理由づけ」を示すことができる。

## 2 検証の視点と方法

検証の視点と方法を表5に示す。

表5 検証の視点と方法

表3 検証の視点と方法	
検証の視点	方法
<p>自分の考えの根拠を明確にする力が高まつたか。</p> <p>力A：「事実」を正しく示すことができたか。</p> <p>力B：「事実」と意見を結びつける「理由づけ」を示すことができたか。</p>	<p>プレテスト ポストテスト 吟味シート 事前アンケート 事後アンケート</p>
<p>根拠を吟味する際、「吟味シート」を活用することは、自分の考えの根拠を明確にする力を高めるのに有効であったか。</p>	事後アンケート

## (1) プレテスト・ポストテスト

テストでは、未習の課題「映画を見るなら、映画館で見るほうがよいか、DVDで見るほうがよいか」

(東京書籍『新しい国語1』平成14年度一部改)を用いた。なお、プレテストとポストテストは同じ問題とするが、ポストテストでは「吟味シート」を活用し、根拠を吟味する活動を取り入れた。

この課題について、書かれている「事実」や「理由づけ」により、根拠を明確にすらことができたか

どうかを検証した。

プレテストとポストテストにおける力A、力Bそれぞれの判断基準として、力Aを表6、力Bを表7に示す。

表6 プレテスト・ポストテスト 力Aの判断基準

評価		基 準
○		視点②・③を満たして解答しているもの
△	△ 1	視点③を満たしているが、視点②を満たさないで解答しているもの
	△ 2	視点②を満たしているが、視点③を満たさないで解答しているもの
×	× 1	もう一方の立場のマイナス面だけを「事実」として解答しているもの
	× 2	無解答

## 2 指導計画（全4時間）

時	学習内容
1	○ プレテストをする。 ○ 問答ゲームを通して、根拠となる「事実」や「理由づけ」の取り上げ方について理解する。 ○ 相手を納得させる「事実」や「理由づけ」について考える。
2	○ 課題1「テスト中に使うには、鉛筆がよいか。シャープペンシルがよいか。」を用いて、「吟味シート」の使い方を確認する。
3	○ 課題2「学校に持つて行くには、水筒がよいか。ペットボトルがよいか。」を用いて、内容がはっきりしていない「事実」やつながりが悪い「理由づけ」を示し、吟味する視点や修正の仕方を確認する。 ○ 「吟味シート」を活用し、根拠を明確にして意見文を書く。
4	○ ポストテストをする。 ○ 自分の考えの根拠を吟味する視点について再度確認し、学習のまとめをする。

表7 プレテスト・ポストテスト 力Bの判断基準

評価		基 準
○		「事実」と意見を結びつける「理由づけ」を示しており、視点⑤・⑥を満たして解答しているもの
△	△ 1	「事実」と意見を結びつける「理由づけ」を示しており、視点⑥を満たしているが、視点⑤を満たさないで解答しているもの
	△ 2	「事実」と意見を結びつける「理由づけ」を示しており、視点⑤を満たしているが、視点⑥を満たさないで解答しているもの
	△ 3	「事実」を繰り返した内容を「理由づけ」として解答しているもの
×	× 1	「事実」と意見を結びつけていない「理由づけ」を解答しているもの
	× 2	無解答

## (2) 事前アンケート・事後アンケート

自分の考えの根拠を明確にすることに関する生徒の意識の変容を把握するために、4段階評定尺度法による事前・事後アンケートを行った。事後アンケートでは、事前アンケートの内容に加え、「吟味シート」の活用の有効性に関する生徒の意識を把握するアンケートを行った。また、「吟味シート」の活用について思ったことや考えたことを自由に記述させた。

## IV 研究授業

### 1 研究授業の内容

- 期 間 平成25年1月10日～平成25年1月16日
- 対 象 所属校第1学年（2学級64人）
- 単元名 根拠を明確にして書こう
- 目 標

吟味する視点を示した「吟味シート」を活用することにより、自分の考えの根拠を明確にする。

## V 研究授業の分析と考察

### 1 根拠を明確にする力が高まったかどうか

#### (1) プレテスト・ポストテストによる分析

##### ア 力Aについて

図2は、力Aに関するプレテスト・ポストテストの結果である。

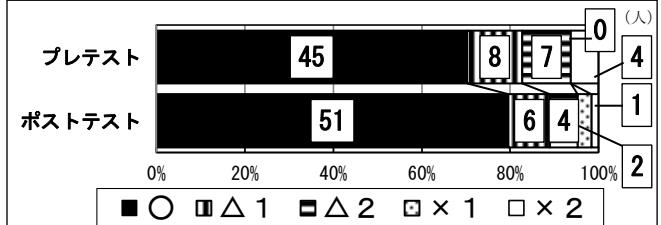


図2 力Aに関するプレテスト・ポストテストの結果

○評価の生徒は45人（70%）から51人（80%）に増加した。×評価の生徒は、4人（6%）から3人（5%）に減少した。

プレテストでは、ナンバリングを用いて、自分の考えの根拠として複数の「事実」を示すことができる生徒が多いことが分かった。しかし、「映画館は迫力がある。」などの内容や数値がはっきりしていない「事実」を示していた△1評価の生徒が8人（13%）であった。ポストテストでは、「この間の休日、映画館で映画を見ると画面が大きくとても迫力があった。」などの内容を詳しくする生徒が増えた。これは、「吟味シート」に示されているヒントを参考することにより、体験談を示すことができるようになったからだと考える。

これらのことから、力Aはおむね高まったと考

える。

一方、ポストテストで×1評価の生徒2人は、「DVDはわざわざ映画館に行かなくてすむ。」などと示していた。これらの生徒は、「事実」にもう一方の立場のマイナス面だけを取り上げても相手を納得させる根拠にはならないということを十分に理解していなかったと考える。

#### イ カ力Bについて

図3は、力Bに関するプレテスト・ポストテストの結果である。

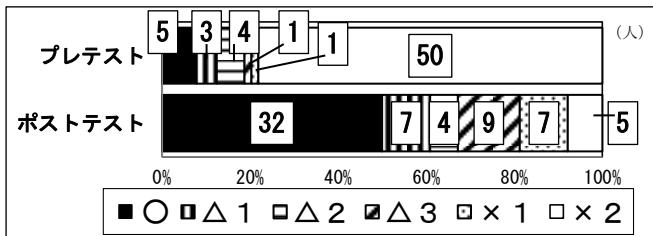


図3 力Bに関するプレテスト・ポストテストの結果

○評価の生徒は5人（8%）から32人（50%）に増加した。×評価の生徒は、51人（80%）から12人（19%）に減少した。

プレテストでは、根拠として「事実」と意見を結びつける「理由づけ」を示すことができない生徒が多いことが分かった。

ポストテストでは、「（映画館はスクリーンが大きいからだ。）それによって、DVDで見たときよりも感動や迫力、スリルが大きくなった。」などの「事実」と意見を結びつける「理由づけ」を示す生徒が増えた。これは、「『事実』のどのようなところがよいのか」について考えることにより、「事実」とつながりのある「理由づけ」を示すことができるようになったからだと考える。さらに、△3評価の9人（14%）の生徒を見ると、「（DVDは見たいときに見えるからだ。）それによって、自分の気分で、見たいときに見て、何回も見れる。」などの「事実」を繰り返した内容を示していた。これらの生徒は、内容の重複に気付くことはできなかつたが、「事実」とつながりのある「理由づけ」を示すことはできるようになったと考える。

これらのことから、力Bは高まったと考える。

一方、ポストテストで×1評価の生徒の7人（11%）は、「（映画館は画面が大きく迫力があるからだ。）それによって、映画館は大きな画面で映画が見える。」などの「事実」と意見を結びつけていない「理由づけ」を示していた。これらの生徒は、「事実」と「理

由づけ」のつながりについて十分に理解できていなかつたと考える。

#### (2) 事前アンケート・事後アンケートによる分析 ア カ力Aについて

図4は、「自分の考え方の根拠として『事実』を示すことができる。」に対する事前・事後アンケートの結果である。

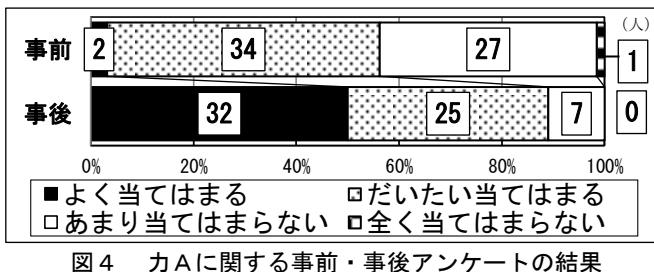


図4 力Aに関する事前・事後アンケートの結果

「よく当てはまる」と回答した生徒は、2人（3%）から32人（50%）に増加した。否定的な回答をした生徒は28人（44%）から7人（11%）に減少した。

事後アンケートで、肯定的な回答をした生徒の多くは、「正確で分かりやすい『事実』にした。」「実際に体験したことを書くように気を付けた。」などと書いていた。

これらのことから、力Aに対する生徒の自己評価は高まったと考える。

一方、否定的な回答をした7人の生徒は、「『事実』をどんな感じで書けばいいか分からなくて難しかつた。」などと書いていた。これらの生徒は、「事実」の取り上げ方について十分に理解できていなかつたと考える。

#### イ カ力Bについて

図5は、「自分の考え方の根拠として『理由づけ』を示すことができる。」に対する事前・事後アンケートの結果である。

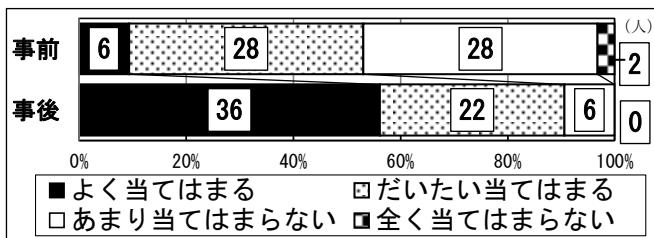


図5 力Bに関する事前・事後アンケートの結果

「よく当てはまる」と回答した生徒は、6人（9%）から36人（56%）に増加した。否定的な回答をした生徒は30人（47%）から6人（9%）に減少した。

事後アンケートで、肯定的な回答をした生徒の多くは、「『事実』と同じことを書かないよう気を付けた。」「『事実』と内容がそれないように気を付けた。」などと書いていた。

これらのことから、力Bに対する生徒の自己評価は高まったと考える。

一方、否定的な回答をした6人の生徒は、「『理由づけ』を考えることが難しかった。」と書いていた。これらの生徒は、「事実」と「理由づけ」のつながりについて十分に理解できていなかったと考える。

以上、(1) (2) から、自分の考えの根拠を明確にする力は高まり、さらに、生徒の自己評価も高まったと考える。

### (3) 個に焦点を当てて

次の生徒aは、プレテストとポストテストを比較し、変容が顕著であった生徒である。生徒aのプレテストを示す。

ぼくは、DVDで見るほうがよいと思う。理由は、三つあります。一つ目は、[1] わざわざ映画館までいくのがめんどくさいからです。[2] DVDなら、家で見れるからです。

二つ目は、[3] むだに交通費を使わないからです。[4] DVDなら友達やお店で借りればいいからです。

三つ目は、[5] まきもどしができないからです。映画館は一回みると、もう一回みるには、またお金をはらわなければなりません。しかし、DVDなら、[6] 一回かりただけでまきもどしができるし、何度も見れるからです。だから、DVDのほうがよいと思います。

#### 生徒aのプレテストの記述

ナンバリングを用いて複数の「事実」を示すことはできているが、整理されていない。これらの傍線部の「事実」について、判断基準に照らし合わせて分類し、表8に示す。

表8 判断基準に照らし合わせて分類した「事実」

評価	基 準	番号
○	内容がはっきりしており、信頼できる「事実」	[6]
△ 1	信頼できるが、内容がはっきりしていない「事実」	[2] [3] [4]
× 1	もう一方の立場のマイナス面だけを挙げた「事実」	[1] [5]

この表から、内容がはっきりしていない「事実」が多いため、力Aは△1と評価した。「事実」と意見を結びつける「理由づけ」を示すことができていないため、力Bは×2と評価した。

次に、生徒aの第3時の「吟味シート」の一部を示す。

事実	評価
① ペットボトルは、自分の好きな量で持って来れる。	② △ ③ ○
理由づけ	
④ 飲み残しがない。	⑤ ○ ⑥ △

#### 生徒aの第3時の「吟味シート」の一部

「事実」と意見を結びつける「理由づけ」を示すことができている。しかし、「事実」と「理由づけ」についての評価欄が空欄であることから、評価・批判できていないことが分かる。

次に、生徒aのポストテストを示す。

僕は、映画を見るなら、DVDで見るほうがよい。  
なぜなら、まきもどしができ、何度も見れるからだ。それによって、DVDは映画の内容がより詳しく分かるからだ。  
よって、私は、映画を見るなら、DVDで見るほうがよい。

#### 生徒aのポストテストの記述

プレテストと比べ、傍線部の「事実」は内容がはつきりし、信頼できるものであり、波線部の「理由づけ」は「事実」と意見を結びつけるものになっているため、ともに○と評価した。

次に、生徒aのポストテストの「吟味シート」の一部を示す。

事実1	評価
① 友達などからDVDを借りることができる。 └ 持っている	② △ ③ ○
理由づけ1	
④ 映画館に行く手間もはぶけ、お金もかからない。	⑤ ○ ⑥ △
事実2	
① 何度もくりかえし見れる。 └ まきもどしができ、	② △ ③ ○
理由づけ2	
④ 映画の内容がより詳しく分かる。	⑤ ○ ⑥ △
事実3	
① DVDでみるよりはく力がある。	② △ ③ ○
理由づけ3	
④ よりおもしろく見える。	⑤ ○ ⑥ △

#### 生徒aのポストテストの「吟味シート」の一部

「事実」と「理由づけ」についての評価欄に記入があり、評価・批判できている。また、事実1には「持っている」、事実2には「まきもどしができ」という言葉を足すことにより、内容をはつきりさせている。さらに、相手に伝えたい最も重要な根拠として、事実2と理由づけ2を選び、ポストテストに記述することができている。

これは、「吟味シート」を繰り返し活用することにより、「事実」と「理由づけ」を整理することができるようになったからだと考える。

以上のことから、生徒aは、自分の考えの根拠を明確にする力が高まったと考える。

## 2 「吟味シート」を活用することは、自分の考え方の根拠を明確にする力を高めるのに有効であったかどうか

### (1) 事後アンケートによる分析

図6は、「自分の考え方の根拠を明確にするために、『吟味シート』は役に立ったと思う。」に対する事後アンケートの結果である。

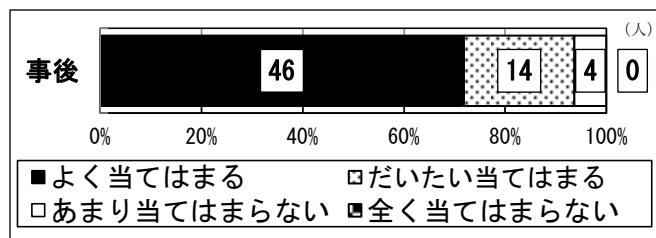


図6 事後アンケートの結果

肯定的な回答をした生徒は、60人（94%）で、否定的な回答をした生徒は、4人（6%）であった。

肯定的な回答をした生徒の多くは、「『吟味シート』があると『事実』と『理由づけ』を整理することができ、とても便利だった。」「『吟味シート』で『事実』や『理由づけ』が書けるようになった。」などと書いていた。

これらのことから、「吟味シート」を活用することは、自分の考え方の根拠を明確にする力を高めることに有効であったと考える。

一方、否定的な回答をした生徒の一人は、「使いにくかった。」と書いていた。これらの生徒は、「吟味シート」の活用の仕方を十分に理解できず、有効性を実感できなかったと考える。

## VI 研究のまとめ

### 1 研究の成果

中学校国語科の「書くこと」の指導において、根拠を吟味する際に「吟味シート」を活用することによって、自分の考え方の根拠を明確にする力を高めることができた。

### 2 今後の課題

○ 力Aに関して課題があった生徒は、相手を納得させる「事実」の取り上げ方について十分に理解していなかった。相手を納得させる内容について理解できるように、記述前段階において相互評価活動をさせる。

○ 力Bに関して課題があった生徒は、「事実」と「理由づけ」のつながりについて十分に理解できていなかった。つながりについて理解することができるよう、特に視点④について指導の改善をしていく。

○ 「吟味シート」の有効性を感じていなかった生徒は、「吟味シート」の活用の仕方を十分に理解できていなかった。活用しやすくなるように、手順を見直していく。

### 【注】

(1) 阿部昇 (2003) : 『文章吟味力を鍛える—教科書・メディア・総合の吟味』明治図書 pp.178-179, 難波博孝・三原市立木原小学校著 (2006) : 『楽しく論理力が育つ国語科授業づくり』明治図書 p.103, 岩間正則 (2010) : 『中学生の「記述力」を育てる6つの要素』明治図書 pp.27-29 をもとに稿者が作成した。

### 【引用文献】

- 1) 文部科学省 (平成20年) : 『中学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版社 p.33
- 2) 野澤正美 (2005) : 『文芸研・新国語教育事典』明治図書 p.25
- 3) 吉永幸司 (2002) : 『「書くこと」で育つ学習力・人間力』明治図書 p.152
- 4) 吉永幸司 (2002) : 前掲書 p.152
- 5) 文部科学省 (平成20年) : 前掲書 p.33
- 6) 新村出編 (2011) : 『広辞苑』岩波書店 p.775
- 7) 阿部昇 (2009) : 『国語教育指導用語辞典(第四版)』教育出版 p.106
- 8) 阿部昇 (2009) : 前掲書 p.107
- 9) 国語教育研究所 (1991) : 『国語教育研究大辞典普及版』明治図書 p.163
- 10) 大内善一 (2012) : 『国語教育指導用語辞典(第四版)』教育出版 p.132
- 11) 土部弘 (1972) : 『作文指導事典』第一法規出版 p.158
- 12) 土部弘 (1972) : 前掲書 p.161

### 【参考文献】

木村千佳子 : 平成19年度後期教員長期研修の研究「意見の根拠を明らかにする力を高める中学校国語科『書くこと』の指導の工夫 - 相互に批評する活動を通して - 」